

～和光「時計塔」竣工 80 年 × 銀座線開業 85 周年 タイアップによる記念企画～

銀座線新型車両 1000 系が「フォトギャラリートレイン」に

4月11日（水）～4月30日（月）、懐かしい昭和の思い出をのせて走ります

セイコーホールディングス株式会社
東京地下鉄株式会社

セイコーホールディングス株式会社（本社：東京都港区 社長：服部 真二）および東京地下鉄株式会社（本社：東京都台東区 社長：奥 義光）は、2012年4月11日（水）から運行を開始する銀座線新型車両 1000 系を「フォトギャラリートレイン」とし、4月11日（水）～4月30日（月）の期間中、車内で和光「時計塔」や東京メトロ銀座線の歴史を感謝のメッセージとともにご紹介するフォトギャラリーを開催します。

今回の「フォトギャラリートレイン」は、和光「時計塔」の竣工 80 年と、銀座線の開業 85 周年を記念し、「今までありがとう、そしてこれからも皆様の暮らしとともに」の気持ちを込めて、昭和初期を想わせるレトロな外観を復活させた新型車両 1000 系のデビューに合わせて実施するものです。



銀座の顔として皆様に愛されてきた「時計塔」と「銀座線」は、2009（平成 21）年、日本の近代化に貢献したとして経済産業省の「近代化産業遺産」にともにも認定されるなど、その歴史的価値を高く評価されています。「フォトギャラリートレイン」では、この「時計塔」と「銀座線」をテーマに、銀座とともに歩み続けてきた歴史を振り返りながら、懐かしい写真とエピソードをご紹介します。

また、「時計塔」や「銀座線」の歴史のみならず、銀座四丁目交差点に彩りを添えてきた和光本館のウィンドウディスプレイや、2012年4月1日（日）にリニューアルオープンした「セイコーミュージアム」（所在地：東京都墨田区）に展示されている各時代を代表する時計などのコレクションの一部のほか、個性豊かな銀座線各駅にまつわるエピソードをご紹介します。



その他、銀座駅構内でも同様のフォトギャラリーを4月11日（水）～4月24日（火）の期間で開催いたします。

■開催概要

- (1) 期間：2012年4月11日（水）～4月30日（月）
- (2) 媒体：○ 銀座線新型車両 1000 系車内（ポスター、ステッカー、車内ビジョン）
○ 銀座駅構内銀座四丁目交差点エリア（壁面パネル、柱巻き）※4/11～4/24
- (3) 内容：銀座の街や銀座線の写真を感謝のメッセージとともに掲示

銀座・和光「時計塔」

セイコーの顔である現在の「時計塔」は、1932（昭和7）年6月10日「時の記念日」に、服部時計店（現セイコーホールディングス）の新社屋として銀座四丁目の交差点に誕生しました。その後、小売部門が高級専門店・和光として独立したことで、建物は和光本館と名前を変え、時計塔も銀座のシンボル「和光の時計塔」として皆様に親しまれてきました。1988（昭和63）年には日本建築士会連合会により東京都のランドマークに、2009（平成21）年には経済産業省により「近代化産業遺産」に認定され、今年6月10日に竣工80年を迎えます。



東京メトロ「銀座線」

「銀座線」は、地下鉄の父・早川徳次（はやかわのりつぐ）が生涯をかけて情熱を注ぎ込んで誕生させたものです。1914（大正3）年、ロンドン視察の際に出会った地下鉄に魅せられた早川は、帰国後、自らの手で東京に地下鉄を建設することを決意し、不況や資金難、関東大震災等の様々な険しい道のりを乗り越え、1927（昭和2）年12月30日、浅草～上野間に東洋初の地下鉄を開業させました。2008（平成20）年には土木学会により選奨土木遺産（浅草駅～新橋駅間の土木構築物）に、2009（平成21）年には経済産業省により「近代化産業遺産」に認定され、今年12月30日に開業85周年を迎えます。



銀座線新型車両1000系は、環境負荷低減として永久磁石同期モータやLED照明、また走行騒音低減として操舵台車を採用するなど、数々の最新技術を取り入れた車両です。

また車体は、1927（昭和2）年の銀座線開業から約40年間にわたり親しまれた旧1000形を彷彿とさせるレモンイエローを車体色として採用し、レトロ調のデザインとなっています。

